

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02556

研究課題名(和文) 留学生の定着/移動とキャリア形成に関する国際比較研究 企業の海外展開との関係から

研究課題名(英文) International Comparative Study on the Mobility and Career Development of International Students: Considering the Relation with the Overseas Expansion of Study Destination Companies

研究代表者

佐藤 由利子 (Sato, Yuriko)

東京工業大学・環境・社会理工学院・准教授

研究者番号：50323829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、留学生の人生設計(留学先、就職先、定着先選定要因分析)モデル(佐藤 2016)に基づき、企業の海外展開が、当該国への留学を促すとともに、留学生の卒業後の帰国も促進するという仮説を立て、日本、米国、ドイツ、オーストラリアなどで学ぶ約1000名の留学生・元留学生の質問紙調査結果、約50名の元留学生と約20名の日本企業関係者への聞き取り調査結果を分析した。その結果、貿易や海外投資(企業の海外展開に関する指標)が留学生の受入れを促すと共に、卒業後の帰国(頭脳循環)も促していることが確認され、日系企業が元留学生の獲得・定着を図るためには、日本の人事管理制度を見直す必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、留学生の移動/定着に、企業の海外展開など留学生受入国と送出国の経済的関係性、さらに政策、制度、文化などが影響するという留学生の人生設計モデル(佐藤 2016)に基づき、定量的調査と定性的調査を組み合わせた実証的分析を行った点にある。本研究の社会的意義は、少子高齢化の進展や経済のグローバル化の中で、留学生の受入れと採用ニーズが高まる中、留学生と企業双方の調査を通じて、それぞれの期待と課題を明らかにし、両者にとってメリットのある解決策を示した点にある。

研究成果の概要(英文)：This research hypothesized that overseas expansion of companies would promote the inflow of international students and also encourage them to return home (brain circulation) after graduation. We analyzed the questionnaire responses of about 1000 international students and graduates, interviews with 70 international graduates and human resource (HR) managers of Japanese companies, and open source data (UNESCO, World Bank, etc.) based on the life planning model (Sato 2016, 2021). As a result of the analysis, it became clear that trade and foreign investment (indicators of overseas expansion of companies) have promoted the inflow of international students and their return after graduation. In order to realize brain circulation, which is beneficial for both international graduates and Japanese companies, it is necessary to reform traditional Japanese-style HR management to facilitate their earlier overseas assignments and to prevent their job hopping to other multinational/local companies.

研究分野：留学生政策

キーワード：留学生 就職 日本企業 高度人材獲得 移民政策 国際移動 オーストラリア ドイツ

1. 研究開始当初の背景

知識基盤経済と少子高齢化の進展の中で、留学生は社会統合が容易な高度人材の卵として、また、外貨をもたらし、出身国と受け入れ国の架け橋となる存在として、世界各国で獲得競争が繰り広げられ、卒業後の留学国への就職・定着も促進されてきた。

例えば日本では、留学生 30 万人計画の下で、高度人材受け入れと連携しながら、留学生の誘致と就職支援が実施され、ドイツでも留学生 35 万人計画を掲げ、留学生の就職支援や永住権取得上の優遇策を実施している。また、オーストラリアでは「国際教育のための国家戦略 2025」の下に、留学生増加を国家目標とし、留学生が技術移民の重要な供給源となっている。

このような留学生誘致と就職支援策の背景の 1 つに、留学国の企業のグローバル展開と、そのための人材ニーズの高まりがあると考えられる。日本の海外直接投資額は、国内市場の縮小などを背景に、世界第 2 位の規模に拡大し (UNCTAD 2018)、日本企業の海外拠点数は 2013 年から 2017 年にかけて 18% 増加し (外務省 2017)、製造業の海外生産比率は 25.3% に上る (経済産業省 2017)。このような企業の海外展開は、日本留学を促進するとともに、留学生の帰国を促す要因ともなってきたと考えられる。この推定を裏付けるように、日本企業に就職した留学生の 45% が、将来海外拠点で働くことを希望し、4 割近くが 5 年以内に離職する計画であることが報告されている (新日本有限責任監査法人 2015)。

このような傾向は、日本同様、海外直接投資が多く、製造業が盛んなドイツについても見られるのだろうか。また、海外直接投資は少ないものの、金融、教育、アグリビジネス等の分野で海外展開を図るオーストラリアでは、異なるのだろうか。留学国の政策、制度、経済、文化、留学生の語学力、性別、専門分野、出身国の状況はどう影響し、彼らの定着 / 移動は、所属組織や社会、出身国と留学国の関係にどのような変化をもたらしているのだろうか。

2. 研究の目的

本研究では、上記の問いに答えるため、日本、ドイツ、オーストラリアの高等教育機関を卒業し、留学国の企業で働く留学生の定着 / 移動の傾向と、それに影響する要因を分析すると共に、彼らのキャリア形成、職場への貢献、課題などを比較し、留学生誘致 / 教育 / 就職促進政策の長期的効果と課題の解決に向けての示唆を導くこと目指した。

具体的には、留学生の人生設計 (留学先、就職先、定着先選定要因分析) モデル (佐藤 2016) に基づき、下記に示す仮説を立て、それを検証する形で分析を行った。

< 留学生の留学国選択に関する仮説 >

対象の 3 カ国は、留学生獲得における米国の圧倒的優位に対抗し、留学生誘致を推進しており、日本とオーストラリアはアジア出身留学生が 8 割以上という点が共通している。ただし、オーストラリアは、英語圏で言語的障壁が小さいことが留学の促進要因であるのに対し、日本とドイツでは、企業の海外展開が留学の促進要因になっている。

< 留学生の卒業後の定着 / 移動 (帰国) / キャリア形成に関する仮説 >

・英語圏のオーストラリアでは移住希望の留学生が多いのに対し、日本、ドイツでは、企業の海外展開が誘因となり、卒業後すぐに、または一定期間就労後、帰国する者が多い。

・留学生の定着 / 移動とキャリア形成に、留学国の政策、制度、経済、文化、留学生の語学力、性別、専門分野、出身国の状況が影響する。例えば、外国人が働きやすい制度が整っているほど、また、留学生の留学国言語の習熟度が高いほど、定着率が高い。また、母国と留学国の文化が近いほど、留学国への定着も、帰国後の留学経験の活用も容易である。

本研究の独自性は、留学生の定着 / 移動に、留学国企業の海外展開と政策、制度、経済、文化、言語が影響するという仮説を立て、日本と同様企業の海外展開が盛んなドイツ、日本と同様アジア出身の留学生が多いオーストラリアとの比較において、日本で学ぶ留学生の特徴を明らかにし、さらに、留学生の語学力、性別、専門分野、出身国の状況との関連性を、実証的に明らかにしようとした点にある。

本研究の創造性は、日本の留学生誘致 / 教育 / 就職促進政策の効果と課題を、同じ非英語圏で製造業に強みを有するドイツ、アジアの留学生獲得において日本の競争相手であるオーストラリアとの比較により、具体的に示し、課題解決に向けての示唆を導く点にある。

3. 研究の方法

本研究では、下記の組み合わせる混合調査法を採用した。

既存調査データの分析による留学生の定着 / 移動傾向の把握と影響要因の推定

留学生及び元留学生への質問紙調査

留学国企業で働く元留学生への聞き取り調査

留学生採用企業等関係者に対する聞き取り調査

具体的には、下記のスケジュールで調査を進めた。

(1) 2019 年度

研究初年度として、日本における留学生の卒業後の進路選択の状況、日本に就職した場合の定着 / 移動の状況について、出入国管理庁や日本学生支援機構等の統計や調査データを入力して分析を行うとともに、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、ネパールなど、日本留学生が多い国の留学生に対する質問紙調査や聞き取り調査、また、留学生を採用している企業や人材紹介会社に対する聞き取り調査を実施した。

また、日本と比較対象のオーストラリアとドイツを訪問し、研究協力者と打ち合わせを行うとともに、これらの国で学ぶアジア出身留学生の卒業後の就職状況について聞き取り調査を実施した。

(2) 2020 年度

コロナ禍により、比較対象であるドイツ、オーストラリア、また留学生の主要出身国（中国、ベトナム、インドネシア等）での現地調査が行えなかったため、それに代わって、コロナ禍が留学生や元留学生の進路や仕事に与えた影響について、日本及び海外でオンライン調査を実施するとともに、日本学生支援機構の私費外国人留学生生活実態調査、外国人留学生進路状況調査、厚生労働省の外国人雇用状況調査、法務省の在留外国人統計、オーストラリアの留学生統計、留学生進路状況調査、ドイツの National Educational Panel Study (NEPS) などの既存の調査データを用いて分析を行った。

また、元留学生に対する Zoom インタビューを行うとともに、留学生を採用している企業関係者等が出席するオンラインのセミナーに出席し、情報収集を行った

(3) 2021 年度

コロナ禍により、予定していた海外訪問調査や、オーストラリアからの研究者招へいができなかったため、その代わりに、オンラインによる質問紙調査やインタビュー調査を行うと共に、オンラインで実施される海外の学会に積極的に参加し、発表を行い、そこで知り合った米国の研究者を研究協力者に招いて、共同で、コロナ禍による留学生の進路選択への影響に関する質問紙調査を実施した。

また、EU の科学技術政策と留学交流を含む国際教育交流活動に関して、ハイブリッド方式による研究集会を開催した。

さらに、海外の組織（DAAD、ベトナムの Hoa Sen 大学、南アフリカのプレトリア大学）からの招待講演を積極的に引き受け、研究ネットワークを拡大した。

(4) 2022 年度

2022 年度は、研究延長期間として、コロナ禍において実施できなかった現地調査をドイツ、オーストラリア、米国において実施し、政府機関関係者、大学関係者、国際教育シンクタンク関係者、元留学生などに聞き取りを行うと共に、国内では、留学生の就職支援を行う NPO や専門学校関係者や、日本で就職した元留学生、DAAD 東京事務所長へのヒアリングや、出入国管理庁や日本学生支援機構による統計や調査データの分析を実施した。

4 . 研究成果

本科研の成果として、10 本の査読付き論文（内、7 本が英語論文、3 本が国際共著、7 本がオープンアクセス）、10 冊の図書（内、1 冊は単著、1 冊は英語による共著）、8 本の論考（内、2 本は英文）を出版し、招待講演（内、3 件は英語による講演）を 4 回、国際学会での発表を 10 回、国内学会での発表を 8 回行った。

さらに 2021 年には、EU の科学技術政策と留学生交流を含む国際教育交流活動に関して、ハイブリッド方式による研究集会を開催した。

本科研の成果にかかる代表的論文とその主な内容は以下の通り。

Sato, Y. (2019) “Asian Students’ Brain Circulation and Japanese Companies: An empirical study to explore the relationship”, Asian Education and Development Studies, Vol. 9, No.1, pp. 333-352, <https://doi.org/10.1108/AEDS-02-2019-0044>

主な内容：中国、タイ、インドネシア、ベトナム出身で、日本または母国の日本企業・日系企業に勤める 283 名の元日本留学生の質問紙調査回答と、23 名の元日本留学生、16 名の日本企業・日系企業の人事担当者や日本商工会議所関係者への聞き取り調査結果を、留学生の人生設計（留学先、就職先、定着先選定要因分析）モデル（佐藤 2016）に基づき分析し、日本企業の海外展開が、留学生の帰国（頭脳循環）を促しているものの、年功序列などの日本の伝統的人事管理方式が、元留学生人材の獲得と定着の妨げになっていることを明らかにした。

Sato, Yuriko (2021) “What influences the direction and magnitude of Asian student mobility? Macro data analysis focusing on restricting factors and lifelong planning”.

Compare: A Journal of Comparative and International Education, published online, <https://doi.org/10.1080/03057925.2021.1976618>

主要内容：1999年から2017年までのアジアの主要な留学生送出国6か国から、日本、オーストラリア、ドイツを含む世界の主要な留学生受入れ国への留学生移動に影響を与える要因について、UNESCO、世銀、ILO、UNCTADなどのデータを用いて、留学生の人生設計（留学先、就職先、定着先選定要因分析）モデル（佐藤 2016）に基づき、定量的分析を行った。

分析の結果、送出国と受入れ国の経済格差は、従来のプッシュ・プルモデルで言われていたように、留学生移動の促進要因ではなく、経済格差が縮まるほど、また、貿易などの経済活動が拡大するほど、留学生移動が拡大することを実証的に示した。また、アジアにおける経済成長は、アジア域内の留学生移動を拡大すると共に、留学生の帰国（頭脳循環）も促しているという示唆を導いた。

Sato, Y., Bista, K., & Matsuzuka, Y. (2022). COVID-19 Pandemic's Impact on International Students in Japan and the United States: Comparative Study From National and Institutional Context. *Journal of Comparative & International Higher Education*, Volume 14, Issue 3B, pp. 44-57 <https://doi.org/10.32674/jcihe.v14i3b.3832>

主要内容：2020年に日本と米国の大学に在学していた留学生494名への質問紙調査に基づき、コロナ禍が、留学生の学び、生活、将来設計に与えた影響と、その背景にある国の政策や大学の方針の違いについて、考察した。

Liu, T., Sato, Y., and J. Breaden (2023) "Factors influencing international students' trajectories: A comparative study of Chinese students in Japan and Australia," *International Journal of Comparative Education and Development*, Vol. 25 No. 1, pp. 23-39. <https://doi.org/10.1108/IJCED-08-2022-0060>

主要内容：日本とオーストラリアの大学を卒業し、留学国に残って働く中国人元留学生353名の質問紙調査回答と、10名の元留学生と6名の企業の人事担当者への半構造化インタビューを、人生設計（留学先、就職先、定着先選定要因分析）モデル（佐藤 2016）に基づき分析し、日本留学者は、留学費用の安さと文化的関心が誘因で留学を選択し、卒業後は、修得した能力・専門性の活用を理由として日本就職する傾向があるのに対し、オーストラリア留学者は、家族・友人の勧めで留学を選択し、卒業後は、移住（長期定着）を目的として就職する傾向が強いこと、その背景には、留学国の留学生政策、移民受入れ政策、また、それに対応した留学生とその家族の長期計画があることを論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Sato Yuriko	4. 巻 53
2. 論文標題 What influences the direction and magnitude of Asian student mobility? Macro data analysis focusing on restricting factors and lifelong planning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Compare: A Journal of Comparative and International Education	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03057925.2021.1976618	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Yuriko	4. 巻 100
2. 論文標題 Asian Students' Brain Circulation and Japanese Companies: An empirical study to explore the relationship	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Academia Letters	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20935/AL3560	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤由利子	4. 巻 22 (2)
2. 論文標題 留学生30万人計画の成果と課題 - 成長戦略、大学のグローバル化及び日本語教育との関係からの考察 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本評価研究	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Yuriko	4. 巻 101
2. 論文標題 What influences the direction and magnitude of Asian student mobility? Macro data analysis focusing on restricting factors and lifelong planning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Academia Letters	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20935/AL3953	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Yuriko, Breaden Jeremy, Funai Takashi	4. 巻 40
2. 論文標題 Nihongo Gakko: The Functions and Dysfunctions of Japanese Language Institutes in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 333-352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10371397.2020.1822160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤 由利子、見城 悌治	4. 巻 14
2. 論文標題 戦前期の留学生政策における日華学会と国際学友会の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア教育	6. 最初と最後の頁 46-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32302/ajiakyouiku.14.0_46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuriko Sato	4. 巻 9
2. 論文標題 Asian students' brain circulation and Japanese companies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Education and Development Studies	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/AEDS-02-2019-0044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竇 碩華、松下 奈美子、佐藤 由利子	4. 巻 65
2. 論文標題 日本で就労した中国人元留学生の職場及び生活環境に関する研究 他国出身者との比較、理工系と文系の比較から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.65.3_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Yuriko, Bista Krishna, Matsuzuka Yukari	4. 巻 14
2. 論文標題 COVID-19 Pandemic's Impact on International Students in Japan and the United States:	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Comparative & International Higher Education	6. 最初と最後の頁 44-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32674/jcihe.v14i3b.3832	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Liu Tongrui, Sato Yuriko, Breaden Jeremy	4. 巻 25
2. 論文標題 Factors influencing international students' trajectories: a comparative study of Chinese students in Japan and Australia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Comparative Education and Development	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJCED-08-2022-0060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計22件(うち招待講演 4件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Sato Yuriko
2. 発表標題 Framework to see structural transformation in international education and student/graduate mobility caused by COVID-19
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 65th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato Yuriko, Zhang Wenqing, Toshiyuki Yamazaki, Lai Qin
2. 発表標題 Experiences and choices of Asian international students during the pandemic
3. 学会等名 Comparative Education Society of Asia (CESA) 12th Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato Yuriko
2. 発表標題 What influences the direction and magnitude of Asian student mobility? Macro data analysis based on life planning model
3. 学会等名 DAAD (Deutscher Akademischer Austauschdienst Wissenschaftswerkstatt) science workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sato Yuriko
2. 発表標題 Prospect of a structural transformation in international higher education: From a study of international students in the USA and Japan during the pandemic
3. 学会等名 Society of Transnational Academic Researchers (STAR) 2021 Global Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 留学生30万人計画に見る高等教育の国際化と日本語教育のジレンマ
3. 学会等名 日本高等教育学会第24回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato Yuriko
2. 発表標題 International student policy in Japan and acceptance of students from Africa
3. 学会等名 Seminar on Critical Scholarship” by the Department of Education Management and Policy Studies in the Faculty of Education at the University of Pretoria (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato Yuriko
2. 発表標題 Vietnamese student immigrants in Japan: Before and after the COVID-19
3. 学会等名 Webinar: Contemporary Vietnamese Students Migration to Japan: Opportunities and Challenges held online by Hoa Sen University (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 留学生と地域交流 - コロナ禍を越えて -
3. 学会等名 中島記念国際交流財団 留学生地域交流シンポジウム「コロナ禍の地域における留学生交流の模索」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 コロナ禍による留学生の学びと将来計画への影響 - 日本と米国の比較から -
3. 学会等名 比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 留学生30万人計画の評価 - 成長戦略、大学のグローバル化及び日本語教育との関係からの考察 -
3. 学会等名 アジア政経学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato, Yuriko
2. 発表標題 What determines the destination of Asian students?
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 64rd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, Yuriko
2. 発表標題 Asian Students' Brain Circulation and Japanese Companies: An empirical study to explore the relationship
3. 学会等名 3rd WCCES (World Council of Comparative Education Societies) Symposium (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seto, S.. Sato, Y.
2. 発表標題 Characteristics and perception of international students in Germany
3. 学会等名 5th International NEPS Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, Yuriko
2. 発表標題 Policy Structure and Issues of Plan to Accept 300,000 International Students in Japan
3. 学会等名 2021 Conference of Comparative Education Society of Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 ベトナム人留学生とコミュニティの特徴 - 中国人留学生との比較から -
3. 学会等名 移民政策学会2020年5月年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 中国人留学生とベトナム人留学生の特徴とコミュニティの役割
3. 学会等名 多文化社会研究会 第165回多文化共創フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤由利子、見城悌治
2. 発表標題 戦前期の留学生政策の変化 - 日華学会と国際学友会の活動分析から -
3. 学会等名 アジア教育史学会 2020年度定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuriko Sato
2. 発表標題 Is Socially Sustainable Educational Mobility Realized? The Case of Brain Circulation of Asian Students and Japanese Companies” in Panel “Socially sustainable educational mobility: Rethinking the ethics and politics of student mobilities in higher education
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 63rd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuriko Sato
2. 発表標題 What determines the destination of Asian students? in Study Abroad & International Students SIG Highlighted Panel Session "Mobility and pathway of Asians who study in the U.S.: New framework for empirical analyses using micro and macro data"
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 64rd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuriko Sato, Jeremy Breaden, Takashi Funai
2. 発表標題 Nihongo Gakko: The Functions and Dysfunctions of Japanese Language Institutes in Japan
3. 学会等名 Japanese Studies Association of Australia (JSAA) 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 日本企業の海外展開と留学生の進路選択
3. 学会等名 移民政策学会2019年度年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤由利子
2. 発表標題 留学生30万人計画の評価の試み
3. 学会等名 日本評価学会第20回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 佐藤由利子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本の留学生政策の評価〔増補新装版〕	

1. 著者名 川村千鶴子、明石留美子、阿部治子、佐藤由利子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 都政新報社	5. 総ページ数 300
3. 書名 多文化共創社会への33の提言	

1. 著者名 江原由美子、佐藤由利子、社団法人神奈川県人権センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 236
3. 書名 新・21世紀の人権	

1. 著者名 山脇啓造、佐藤由利子ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 連合総合生活開発研究所	5. 総ページ数 152
3. 書名 外国人労働者の適正な受入れと多文化共生社会の形成に向けて - 外国人労働者の受入れのあり方と多文化共生社会の形成に関する調査研究会報告 -	

1. 著者名 佐藤由利子・徐一文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 「2-4 中国人留学生 1980年代から現在までの変化とコミュニティの特徴」変容する移民コミュニティ	

1. 著者名 佐藤由利子・フン・ティ・ハイ・タン	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 「5-2ベトナム人留学生 - 中国人留学生と比較した特徴とコミュニティの役割」変容する移民コミュニティ	

1. 著者名 孫安石、大里浩秋、佐藤由利子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 500
3. 書名 明治から昭和の中国人日本留学の諸相	

1. 著者名 万城目 正雄、川村 千鶴子、佐藤由利子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 276
3. 書名 インタラクティブゼミナール 新しい多文化社会論	

1. 著者名 Pilz, M., Sato, Y., Ryan Y., et al.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 -
3. 書名 Informal Learning in Vocational Education and Training: Illuminating an Elusive Concept	

1. 著者名 ライオン優子・佐藤由利子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本学生支援機構	5. 総ページ数 19
3. 書名 東南アジア・南アジアの留学生の就職と定着の促進・阻害要因に関する研究報告書（2021年度JASSO リサーチ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>COVID-19による学生の国際移動の構造的変容についての研究 https://www.ura.titech.ac.jp/nn-researchmap/?research=45 Transformation in student mobility by COVID-19 https://www.ura.titech.ac.jp/nn-researchmap/en/?research=45 文部科学省岩淵氏講演会「欧州の科学技術・高等教育政策と日本への示唆」 https://www.titech.ac.jp/event/2021/061179</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	袴田 麻里 (Mari Hakamada) (20334964)	静岡大学・国際連携推進機構・教授 (13801)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	ライアン 優子 (Yuko Ryan) (40615340)	静岡大学・国際連携推進機構・准教授 (13801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	モナシュ大学			
ドイツ	ケルン大学			
米国	モーガン州立大学			